

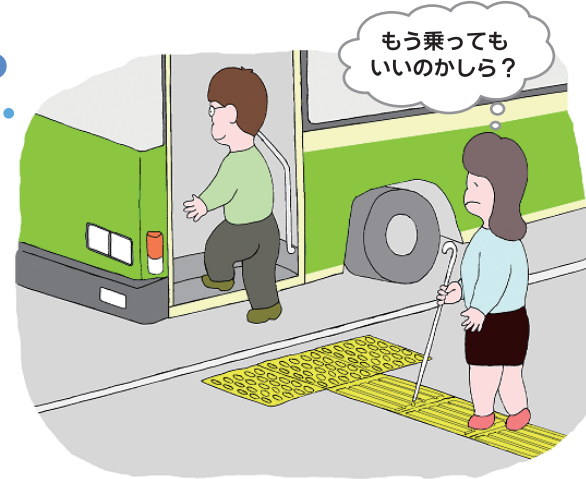
# 例えば、こんなことに困ることがあります

視覚障害のある方の声をもとに、いくつかの例をご紹介します。

## 駅のホームやバス停で…

### 列が動いた事に気づかず、取り残されてしまった…

電車、バスやタクシーを待っていて、いつのまにか列が動いて取り残されてしまうことがあります。後ろからだまって押しついたりせず、乗客の列が動いたことを「前に進めます」「列が動きました」などと教えてください。



### 改札に向かいたいの、電車にさせられてしまった…

援助をする前に、どこに向かっているのかなど、必要としている援助を確認することが大切です。乗るのではなく、降りたばかりかもしれません。まずは、「電車に乗りますか？」などと聞いてください。

### 今日は、立っていたかったのに…

車内で座ってしまうと、降りる時に出口の方向がわからずに困ることがあるので、降りやすいように、出入口の近くに立つこともあります。まず、本人の意思を確認してから、空いている席に案内してください。

## トイレで…

### 初めて入ったトイレで、水の流し方がわからない…

トイレの入り口ではなく、個室まで案内し、中の様子を説明してください。特に、初めてのトイレでは次のようなことがわからなくて困ります。水の流し方、洋式か和式か、便器の向き、トイレトーパーや鍵の位置、汚れている部分等です。

異性の場合は、近くにいる同性の方に案内をお願いしてください。



## このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての視覚障害のある方にあてはまるわけではありません。相手の目線に立ち、個々の障害の状況に合わせて接することが大切です。「その人」の理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。

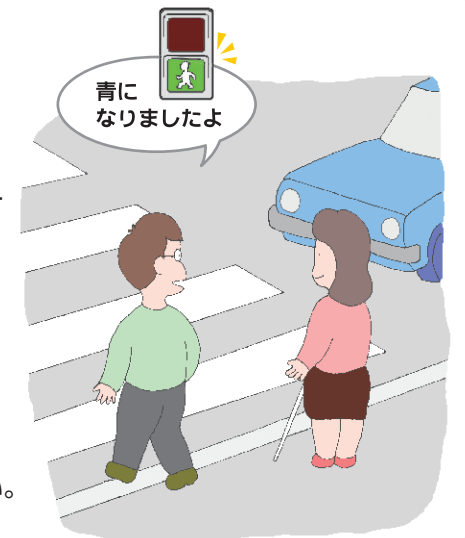
## 横断歩道で…

### 渡るタイミングがむずかしい

信号が青などに変わった時に、「青になりました」「渡れますよ、一緒にしましょうか」等と声をかけてもらえると助かります。

### 無言で腕をひっぱらないで…

道路横断をするところと勘違いした通行人に、いきなり腕をつかまれ、道路の反対側まで連れて行かれて困った人などがいます。無言で腕をひっぱったりせず、まずは「渡りますか？」等とたずねてから、誘導してください。



## いろいろな場所で…

### 誘導用ブロックにモノを置かないで

歩行補助の設備として、黄色いブロックが設置されています。その上に自転車が置かれていたり、立ち話をしている人たちがいて、避けるのに大変な思いをしている視覚障害のある方が大勢います。

また、誘導用ブロックは視覚障害のある方にとって、大切な誘導路ですが、常にその上を歩くわけではありません。ブロックの上を歩いていないからといって、いきなり腕をつかんでブロックの上に連れて行かないでください。ブロックへ誘導する前に、本人の意思を確認してください。



### 今、声をかけてくれたのは、誰？

よく知っている人でも、いきなり話を始められると、誰だかわからず困る事があります。名乗ってから、話を始めてもらえると安心します。

### 「危ない！」って何が危ないの？

「危ない」という言葉だけでなく、「自転車がたくさん止まっていますよ」「前にトラックが停まっています」などと、具体的な状況の説明をしてください。状況がわからないと動けないからです。危険な場面では説明だけでなく、すぐに安全な所まで誘導してください。

